



保幼小連携だより 第3号

No.1

— 南城市保幼小連携事業 —

令和4年9月20日
南城市教育指導課・子育て支援課

第3回保幼小連携事業 松の実こども園公開保育及び合同研修会 8月2日(火)

第3回南城市保幼小連携事業は、松の実こども園の公開保育を通して、学びを小学校へつなげることを目的に合同研修会を実施。公開保育(8時50分～9時50分)は参加者を縮小して大里地区の保育園、こども園、小学校、その他16名の参加者。合同研修会は(10時30分～12時)は南城市庁舎大会議室で行われ58名の参加者がありました。

保育の振り返り

風鈴づくりのエピソード ⇒ 学びのプロセス



バブルアートの模様を見て子供「海みたい。魚貼りたい、貝殻も飾りたい。」イメージを言葉にする。教師「貝殻いいね～。貝殻どこにあるの?」子供「海にある。」教師「行く?」子供「行きた～い」



後日海に出かける青い海、空の下。サンサンとふり注ぐ太陽、潮風を受けて子供達は貝殻やサンゴをいっぱい拾い園へ持ち帰りました。



園に戻ると、拾った貝殻やサンゴが気になりずっと触っていた。そこで貝殻をたたき合わせて力チャカチャカと音がすることに気づいた。



子供達は音の発見をして、風鈴づくりへと遊びが発展していった。後日、インターンシップの高校生に風鈴づくりを教え一緒に遊んでいた。

思いや願いを持つ



自然体験をする



感じる・考える



表現する

幼児の願いや思いを拾い幼児が主体となり主体的で対話的・深い学びへと遊びが展開している。この活動(エピソード)から「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を手掛かりとし幼児教育に育みたい資質・能力を視野に、幼児教育施設と小学校職員との対話を通して学びをつなげていきたいと思います。

保育の様子(園紹介映像から)

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」幼児の主体性と保育者の意図性



うわあ～楽しいな～明日も遊びたいな～



雨の日のお散歩。手作りカップを着てお出かけ



公園で遊んだ遊具を再現



試行錯誤の末、完成した

☆演題: 幼児期の育ちを小学校へつなぐ

☆講師: 宮城利佳子氏 琉球大学教育学部

指導助言抜粋



〈幼児期に育みたい資質・能力〉

- ・知識・技能の基礎: 例〇幼児期に遊び込む時間を保証してあげること。子供自身が常に考えていく。経験したことを話したくて仕方がない。子供自身に話させる言語化させる。
- ・思考力・判断力・表現力等の基礎: 例〇子供の体験・学びの方法を身につけていく。色々体験している子供の話を聞いて一緒に考えやっていく。
- ・試行錯誤していく力、何回やっても成功しない、それでも粘り強くやっていく力をつける。
- ・学びに向かう力: 心情・意欲・態度が育つ中でよりよい生活を営もうとする。学びに向かう力
- 〈子供も保育者も主体的に〉皆が主体的に学び合う。子供の写真を撮った時の子供の姿を語り合う。
- 〈子供の姿をベースに指導計画を立てる〉
- 〈主体的で対話的・深い学び〉
- ・主体的: 自分の思いやイメージを持って遊ぶ姿 ・対話的: 役割分担しながら遊ぶ姿。考えを出し合う姿。
- ・深い学び: 関心や気づきが生まれている姿。

振り返りシート（アンケート）へたくさんのご回答いただきました。
皆様のご協力ありがとうございました。

オンデマンド配信 8月26日～9月6日 視聴者数 91件 回答数 25件

No.2

幼児教育施設

公開保育や合同研修会・講話を聞いての感想(学びや気づきが大きかった点) 抜粋原本のまま

- ◇設定保育ばかりではなく、子どものつぶやきを上手く拾ってあげられるような保育を心がけたいと思った。
- ◇公開保育の日頃の保育を動画でみて、これいいな！たのしそうと思う保育を見つけることができました。講話では、これからもたくさん子どもと一緒に遊び、学び、どんどん子どもたちの声を聞いていこうと思いました！とても良かったです。
- ◇遊びの満足感、とことんこだわる「遊びの保証」が響きました。職員の朝礼のために子どもの遊びや行動を静止することがあります。業務の見直しのヒントを得ることができました。
- ◇講話の中では、保育者の声かけが先回りせず、子どもたちに言語化させるとありましたが、声かけに気を付けたいと思いました。また、子ども主体の保育はもちろんのこと、私たち保育者も物的環境を整えて終わりではなく、遊び込める環境になっているか、動線はこれで良いか等、保育者も常に主体的に考え話し合っていかなければいけないと思いました。子どものつぶやきを聞き逃さないように保育していきたいと思いました。
- ◇幼児期の保育はとことん遊びこませることが大切という事が学びになった。また子ども達の会話から遊びに発展させたりと、主体的な保育と言っても、子供の発想だけでは成り立たない保育もある。どうすればいいのかと感じたときに、保育士も主体的になる。子ども達は何がしたいんだろう、環境配置、動線を考えることが大切！保育士も共同的になり、子どもの気づく力を育てるということが、私の学びに繋がった。

小・中学校教諭

- ◇講話を聴いて学んだことは、「もっと～がしたい」と子ども達が思った時にどうしたらよいか考えさせること、子ども達の声拾い、気づかせ、遊びにつなげる、発展させることが重要だと学びました。これは、小学校の授業でも同じだと思いました。子ども達の声から発問をつないで、考えを深めたり、解答を導き出したり、子ども達が主体となる授業づくりが大切だと考えました。子ども達と一緒に探求して学び、子ども達に寄り添った教育を行っていききたいと思いました。（小）
- ◇園児の「やりたい」「挑戦したい」に寄り添った教育が主体性を育むということが分かりました。小学校教育においても参考にできる点があると思います。（小）
- ◇今回の合同研修に参加して、松の実こども園が大切にしている園の方針を学ぶことができました。その学びの中で、「愛着形成」や「一人ひとりの個性を大切に、自己肯定感を育む」など、幼児期から形成を必要とするものを確実に園で取り組んでおり、非常に勉強になりました。また、子どもからアクションがあった場合（子どもが面白いと思い、アクションしてきた場合）には、それを認めて褒めてあげる事が大事だと言うことを学び、中学生に対しても自己肯定感を育む上で必要なことだと思いました。（中）

質問

- ◇子どもの声から発展させていくことが大切であるということが分かりました。小学校でも子どもの声を聴くことをしていますが、拾い上げられない声に対しては、どのような対応をしたらいいのか難しいと感じています。利佳子先生なら、拾い上げられない意見があった時は、どのように対応しますか教えていただけますか。（小）

回答 宮城利佳子先生より

グループで対話する時間を増やす方法があるかと思います。すべてを先生が拾うことができなくても、グループの中ではそれぞれのつぶやきを受け止め合い、協働できる時間を保障できるといいかと思います。また、拾い上げられなかったことについて、教師が意識し続けていることが必要だと思います。拾えなかったことをなかつたことにするのではなく、他の機会、次の機会にはその子の声を拾おうと意識し続けていけると事だと考えています。